

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム VOL.15 2012年 6月号

文責：大蔵 真子 編集：小木曾 理佐

はじめまして、緩和ケアチームで相談員をしている大蔵と申します。京都生まれ、京都市育ち、その私が縁あって昨年の12月から県病院に就職し、緩和ケアチームの一員としても活動に参加させてもらっています。ある方に「あなた、訛ってますね～」と言われた時はあまりのカルチャーショックに実家へ帰ろうかと思ったこともあります。日々、東濃弁(と言うのでしょうか?)と格闘しています。同じ日本でも、言葉や文化、本当に様々なことが異なりますね。

相談員としては、毎週火曜日にある緩和ケア外来に同席し、必要に応じて緩和ケア病棟への入院前に訪問診療、訪問看護の体制を整えたり、福祉制度(主に介護保険制度や医療費について)の紹介を行ったりしています。また、緩和ケア病棟の担当もしており、入院されてから、家で過ごしたいという希望のある方にも同じように医療と介護サービスの体制を整え、安心して家で過ごせるようにその方にあつた調整をしています。相談員は他の関係機関との橋渡しをする窓口になるかと思えます。地域の先生方には、突然に訪問診療の依頼のお電話を差し上げることになるのですが、いつも丁寧にお返事を頂き、とても助かっています。

陳腐な表現かもしれませんが、この病院に来て良かったと少しでも思ってもらえるように、関西弁でチームワーク抜群の緩和ケアチームの皆と頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



第2回緩和ケア勉強会を行いました。

6月14日(木)に第2回緩和ケア勉強会を行いました。テーマは「患者の生き方を考える」で、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)について、今後の治療の目標や希望を患者さんとご家族と話し合っておく過程が大事であることを話しました。また、がん化学療法看護認定看護師の桜井看護師から、化学療法中の患者さんの全人的苦痛を支えることについて話が、消化器内科の西江先生からは、悪性消化管閉塞に対してのステント挿入について実際のビデオを見ながら説明がありました。(伊藤)



7月の勉強会予定

緩和ケア市民公開講座

日時：7月21日(土) 14時～16時(開場：13時)
講師：アルフォンス・デーケン氏(上智大学名誉教授)
場所：多治見市文化会館 小ホール

平成24年度 岐阜県立多治見病院 緩和ケア市民公開講座

輝いて生きるために ～死とどう向き合うか～

日時：平成24年7月21日(土)
14時～16時(開場：13時)
講師：アルフォンス・デーケン氏
(上智大学名誉教授)
場所：多治見市文化会館 小ホール
〒507-8522 多治見市十九田町2-8 TEL:0572-23-2600

会場案内
入場無料
聴覚障害者サービス
176台(無料)
聴覚障害者サービス
176台(無料)
聴覚障害者サービス
176台(無料)
聴覚障害者サービス
176台(無料)

アルフォンス・デーケン(Alfonso Deeken)プロフィール
1932年 ドイツ生まれ。1959年長崎。1973年ワシントン大学大学院(ニューヨーク)で哲学博士の学位取得。1974年長崎に帰国。以後30年以上にわたり、上智大学で「倫理学、生命倫理学を専攻。オックスフォード大学、上智大学を専攻。『東京・生と死を考える会』、『生と死を考える会』の共同代表。1991年全日本生命倫理学会理事、常任幹事。1995年ドイツで博士号取得。1999年日本生命倫理学会理事。著書『死とどう向き合うか』、NHK出演。『あなたの人を生きるノート』フィルムアート社。他多数。

参加ご希望の方は電話又はFAXにてお申し込みください。
FAXにてお申し込みの際は、住所、電話番号、お申し込み理由をご記入ください。

お問い合わせ・お申し込み
岐阜県立多治見病院 市民公開講座係
〒507-8522 多治見市西町2-161 TEL:0572-22-5311 FAX:0572-25-1246
MAIL:kanwa@tajimi-hospital.jp

主催：地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

—お問い合わせ・お申し込み—
岐阜県立多治見病院 市民公開講座係
TEL:0572-22-5311 FAX:0572-25-1246
MAIL:kanwa@tajimi-hospital.jp